

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 【その1】 <u>重点1</u> (①②③)	目標	○本校の特色を生かし、生徒の資質と能力を育むようなカリキュラム・マネジメントを推進する。 ○生徒一人一人の学習目標に基づく単位修得や技能習得が順調に行えるような教育課程の編成と諸規程の整備を行う。
		計画	○既存の履修形態や単位認定制度の改善を図る。 ○<u>生徒の特性や学力に対応する講座や授業（スクーリング）形態・学校設定科目などを充実させる。</u> ○進路希望や学習目標に応じた受講指導とその学習支援を見直し、改善する。 ○<u>主体的な学習や探究心を高めるための効果的な学習指導について研究する。</u> ○<u>専攻科では専門科目の充実と広範な知識の理解を図り、調理師として確かな技能を習得できるように体制の改善に努める。</u>
	学習活動 【その2】 <u>重点2</u> (②③⑦)	目標	○生徒の学ぶ意欲に応えるために、一人ひとりに応じた学習環境を提供する。 ○社会的自立に向けた資質・能力を身に付けることができるよう支援する。
		計画	○ICT教育の充実を図り、一人一台端末のLAN環境を整える。 ○社会で必要となる基本的なICTスキルや情報モラルを日々の授業の中で身に付けることができるように支援を行う。 ○<u>ICTを含め多様なメディアを活用した授業（スクーリング）を行うために、必要な環境を整備し、効果的な指導法について研修を実施する。</u> ○学校図書館において教科の枠を超えて、生徒のあらゆる主体的な学びや探究活動が、読書習慣によって身に付くよう支援する。
2	学校生活 【その1】 <u>重点3</u> (⑤)	目標	○ 規律や秩序を尊重する態度を養い、自律的・主体的に生活する能力を育てることで、よき校風をつくる。
		計画	○規範意識の向上を図り、各課程の生徒指導部が協力・連携して情報を共有しながら、<u>それぞれの課程の特徴・課題に応じて、生徒の自律性・主体性を高める指導を行う。</u>
	学校生活 【その2】 <u>重点4</u> (⑧)	目標	○学校生活における生徒の安全と健康を確保する。また、生徒が自らの健康を保持するために、よい生活習慣を確立しようとする意識の向上を目指す。
		計画	○ポスター、保健だよりなどで、健康管理や治療を呼びかける。 ○保護者と連携し、健康的な生活を送るための環境作りを支援する。 ○<u>生活習慣の現状を把握し、健康意識（自己回復力）を高めるための方策を実行する。</u>

項 目		目標・方針及び計画	
3	進路支援 重点 5 (⑥)	目標	○将来を見据えた、主体的な進路選択ができるよう支援する。 ○進路に関する知識や情報を与え、進路支援の機会を増やし、生徒の進路意識を高める。
		計画	○進路希望調査や実態調査、適性検査を踏まえて生徒の実態を把握し、個別指導に役立て、充実を図る。 ○進路ガイダンスや進路学習を通して進路意識を向上させ、<u>進路実現に向けての準備を早いうちから進路別に行う。</u> ○進路に関する情報収集に努め、ハローワーク等の関係機関との連携を行いながら、生徒への進路指導の充実を図る。 ○専攻科では、専門分野への就職を目指す。
4	特別活動 重点 6 (④)	目標	○生徒相互や教職員との関わり、地域・社会とのふれあい等を通して、自主性・協調性・社会性を育み、学校生活の充実を図る。 ○生徒の集団への所属感や連帯感を高め、協力して学校行事・部活動などに参加しようとする意識の向上を図る。
		計画	○学校行事や部活動への参加意欲と積極性の向上を図るため、地域との連携なども視野に入れた活動の運営を工夫する。また、学校行事・諸行事・諸活動の教育的効果を検証する。 ○ホームルームの年間計画を確立し、計画的な指導を行う。 ○生徒会活動を通し、<u>地域交流を中心に主体的活動を重視</u>する。 ○<u>各課程の生徒会が行事について意見交換し、他課程の特色を理解しつつ、4 課程が協力して学園祭等の行事を運営する。</u>

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.1—	
重点項目	学習活動 【その1】
重点課題	学習習慣の確立と単位修得
現 状	・生徒の家庭環境や生育歴などが多様で生活力・体力・学力の格差が大きい。 ・発達障害等の健康面や適応性の問題など様々な経緯により入学・転入編入する生徒が大多数である。生活習慣の確立と日々の学習活動が単位修得率に大きく関連している。 ・専攻科では生徒の知識・関心の度合いに差が大きく、一斉指導が難しい。実習において作業工程をしっかりと理解できない生徒が増加している。 ・昨年の単位修得率は、定時制・昼間単位制が 88.7%、夜間単位制 83.7%、通信制が 62.1%（前期）、専攻科では 98%（学年末）となっている。
達成目標	単位修得率 【定時制】 前期末集計 80%以上 *昼間単位制・夜間単位制共通 【通信制】 前期末集計 60%以上 【専攻科】 学年末集計 100%
方 策	【定時制】 ・出席率を向上させるため、健康面や学習状況に応じて教員間の連携や保護者への連絡など早期対策を行う。 ・年次担任を中心に生活指導や進路相談を充実させる。 ・不登校傾向など問題を抱える生徒に対してカウンセラーなど専門家や外部機関との連携を強化し、単位修得や進路目標を意識づける。 ・多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現する方法について検討する。 【通信制】 ・スクーリングや個別面談を通して生徒の学習状況を把握し、適切な助言や添削を行い自学自習の意欲向上と定着を図る。 ・レポート提出前の個別指導や科目担当者との面談をより充実させ、学習達成度に応じた学習指導をきめ細かく行う。 ・学習活動が円滑に進められるようにガイダンスやホームルーム活動を通じて、気軽に相談できる環境を整え、目標に応じた学習に取り組めるよう支援する。 【専攻科】 ・生徒の家庭環境や生活状況について調査した上で個々の学習目標と特性を把握し、効果的な学習指導を行う。 ・実習での予習と復習の時間を設定し、学習効果と実技の定着度向上を図る。

(評価規準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和 8 年度 雄峰高等学校アクションプラン No.2			
重点項目	学習活動【その 2】		
重点課題	一人一台端末を使用した授業の実施		
現 状	・昨年度入学生からタブレットが個人購入となり、授業における活用の必要性が上がってきている。生徒対象のアンケートを GoogleClassroom を通じて行ったり、総合的な学習の時間などでプレゼンテーションソフトを使用した活動を行ったりするなど、授業や HR 等での使用頻度も上がってきているが、教科指導における効果的な活用方法については模索している。昨年度は教員向けの生成 AI 研修を行いつつ、生徒の活用環境の整備を行ってきた。		
達成目標	生徒の一人一台端末 使用達成段階		
	ステップ	内 容	目標値
	① 提示	資料を確認する	100%
	② 共有	GoogleClassroom で連絡事項を確認する。	100%
	③ 課題	アンケートに回答する。小テストを実施する	100%
	④ 収集	授業で生成 A I などを効果的に使用して、情報収集する	60%
	⑤ 分析	収集した情報をアプリケーションを使用して加工する	40%
	⑥ 協議	収集した情報をもとに課題を解決する	40%
方 策	①配布する教材を GoogleClassroom 上で提示することで、使用頻度を上げる。 ②年次/クラス連絡を頻繁にあげることで、使用頻度を上げる。 ③小テストの実施など、授業で使用する頻度を上げることで授業で使うという意識を高めるよう支援する。 ④授業中の疑問などを生成 AI などを通じて解決することでタブレットの利用価値を高めさせる。 ⑤課題研究や総合、実習を要する授業などを通して、情報の加工を行わせる。 ⑥課題研究や総合、実習を要する授業などを通して、生成 AI 利用やグループワークを通じて課題を解決させ、それらを成果物として作成させる。		

(評価規準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和 8 年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.3-	
重点項目	学校生活 【その 1】
重点課題	生徒の自律性・主体性の向上
現 状	・本校に在籍する生徒は、小・中学校で学校に通うことや教室で過ごすことに困難を感じてきた生徒が多い。そのため、集団に入ることには消極的だったり、集団として求められる行動ができなかったりするなど、集団の中での生活・行動が苦手な生徒も多い。また、規範意識が十分に育っていない生徒も見受けられる。 ・自己肯定感が低い生徒が多く、周囲の言動に対し敏感に反応する傾向が強い。そのことが問題行動を引き起こすことにつながることもある。 ・高校入学を機に、自分の目標を定め、学び直そうと地道に努力している生徒も多い。そのような生徒たちを後押ししたり、支えたりする雰囲気を作り出すことが求められる。
達成目標	自律的な行動を通して自己肯定感を獲得する生徒の増加 各課程の様々な教育活動の場面や学園祭等の学校行事において、自律的な行動が意識的に行われ、生徒が成功体験を通して自己肯定感をより高めること
方 策	・昼間単位制では、学校や地域など生徒が関わる集団において、服装・態度・言動について自ら適切に判断して行動する意識を高める。また、アンケートを通し、自律性の向上を促す。 ・夜間単位制では、生徒会や各種委員会、学校行事などの特別活動を活性化させる中で、生徒の自己肯定感を涵養するとともに、T P Oに応じた服装を主体的に考えたり、ルールやマナーを身につけたりする機会を持つ。また、自己評価シートを前期・後期それぞれ 1 回ずつ実施し、自己肯定感の客観的評価を行い、その変容を捉え、生徒理解の一助とする。 ・通信制ではスクーリング登校時に、学校行事やホームルームに参加することで、社会性を身につけ、多様な価値観を学び、自ら学習する態度を培う。 ・全ての課程の生徒が一同にそろう学園祭では、ルールやマナーを意識しながら行事を楽しむことができるように呼びかける。 ・生徒の学校生活における変容を把握するために、引き続きアンケートを実施する。 ・昨年度の反省を踏まえ、守れなかったルールやマナーの主なものを選び、電子掲示板等でマナーアップを呼びかける。

(評価規準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和8年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.4—	
重点項目	学校生活 【その2】
重点課題	基本的生活習慣の確立と自己回復力の向上
現 状	本校には、不登校経験がある生徒、特別支援を必要とする生徒、悩みを抱える生徒など、多様な生徒が在籍している。 日々の学校生活では、体調がすぐれず保健室へ来室する生徒があとを絶たず、「眠い」「食欲がない」「体がだるい」と多くの生徒が訴えてくる。アルバイトや SNS 依存により生活リズムが整わない生徒も多い。また、不規則な食事、栄養バランスの偏りも見られる。 本校では新入生と保護者にプロフィールカード調査をおこなっており、その調査結果から「心身が重い」「体調がよくない」と自覚している生徒が 53%におよんでいる。これは新入生のみならず、全生徒にもいえると推測できる。 そこで、生徒が自ら緊張をほぐして心身が軽くなるように、マインドフルネスをもとにリラックス方法を日々の生活の中に取り入れることにより、心と体の健康をめざし、生活習慣の改善につなげていく必要がある。
達成目標	自己回復力の向上 (自分に合ったリラックス方法を意識して、心身の回復を試みた)
	60%以上
方 策	・生徒へ体調に関する実態調査を行い、現状と課題を明らかにする。 ・講師による講演会の機会を設け、マインドフルネスについて学習し、改善方法・対処法を考え、よりよい自分に合った方法を実行しようとする意識を高める。 ・保健室前の掲示板を活用し、生徒の興味関心を引くような掲示物を作成し、「リラックス」の大切さについて知らせる。 ・毎月発行している保健だよりに、「リラックス」をテーマにした記事を連載することにより、知識、情報を得る機会とし、興味関心を持たせる。 ・学園祭で保健厚生委員による「リラックス」をテーマにした調査・掲示を行い、生徒が自分に合った方法を実行しようとする意識を高める。 ・YUHO ルーム講座で、富大医学部生とのボードゲームやジグソーパズル、手芸などを通して、リラックスして交流できる場を設定する。

(評価規準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和8年度 雄峰高等学校アクションプラン —No.5—	
重点項目	進路支援
重点課題	進路実現をめざす支援活動
現 状	・生徒の意識が卒業することにだけ向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。 ・進路決定に必要な知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。 ・進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。 ・昨年度の達成度（3課程平均 86.6%・専攻科 88.9%）は、達成目標を下回っている。
達成目標	年度末での進路先決定率 ※就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とし、進学に関しては第一志望に限定しない。
	90%以上
方 策	・進路希望調査などを通して早いうちから卒業後の進路について考えることにより、受講登録など学習計画に反映させ、進路実現を行えるよう支援する。 ・進路について考えさせる機会を工夫し、進路意識の向上を図る。 ・オープンキャンパスや応募前職場見学などに積極的に取り組ませ、進路意識を高める。

(評価規準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和 8 年度 雄峰高等学校アクションプラン ーNo.6ー		
重点項目	特別活動	
重点課題	生徒が主体となる自主的な特別活動の推進	
現 状	・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。 ・生徒の中には集団活動が苦手な者もあり、学校行事への参加に必ずしも積極的でない傾向がみられる。そのため参加形態や内容の工夫が必要である。 ・日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。	
達成目標	①学園祭に参加した生徒の満足度	②生徒の主体的な地域交流、ボランティア活動を実施
	90%以上	年6回以上
方 策	・学園祭では4課程合同の展示やステージ発表を企画、運営し、県民カレッジおよび、各課程間の相互理解を深めるとともに、多くの生徒が意欲的に取り組むことができるように内容を考慮する。また、学園祭の事後にアンケートをとり、生徒の満足度や問題点を分析する。 ・生徒会執行委員会と各種委員会との連携を深め、生徒会活動をより活性化させ、生徒自らの判断する力を育てる。 ・地域との交流活動等、校外での自主的活動の機会を積極的に増やし、協働・共生していく姿勢を育てる。	

(評価規準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)